

令和5年度 非核都市宣言平和事業実行委員会  
第9回議事録（要旨）

日時：3月22日（金）午後6時15分～午後8時

会場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員11名

（中里委員長、小餅副委員長、高橋（淳）委員、木川委員、牛田委員、木岡委員、田村委員、北山委員、猿渡委員、横山委員、島津委員）

事務局 3名

1 開会

2 議題

（1）令和6年度 憲法月間記念行事について【資料1】

・事務局より憲法月間記念行事について説明。

【委員】12日に登壇する松元ヒロさんについて調べたが、様々な活動をされている方なので、例えば反対する街宣車等が来るかもしれない。状況によって、武蔵野市にも動きがあるかもしれないことは承知してもらいたい。

【事務局】市の事業であるため、状況を見て対応したい。

【副委員長】ご意見として承る。

・絵手紙の実行委員会賞の選考（投票）。

（2）令和6年度 夏季平和事業について【資料2】

・事務局より夏季平和事業について説明。

【委員】武蔵野プレイス以外に空いている施設は使用する可能性はあるか。

【事務局】その時の施設の空き状況を見て対応することは可能である。イベント内容については、子ども向け、一般向けと分けて実施してきたが、令和5年度は一般と子どもといった分け方ではなく、映画上映と音楽コンサートでの実施であった。来年度も実行委員と協議ができればと思う。

【委員】令和4年度に比べて令和5年度の方が集客できたと思う。令和4年度は、子どもイベントの集客が難しかった。令和5年度は、子ども向け一般向けではなく、映画上映と音楽コンサートと2つのイベントを開催したことが良かったと感じている。

【委員】令和6年は初空襲の年から80年の記念の年であるため、空襲のあった現地を見たり、そこで集会をするのも良いかと思う。武蔵野中央公園周辺などで平和について学ぶ機会を作っても良いと思う。夏には公益財団法人東京都公園協会が武蔵野中央公園周辺でスタンプラリーを行う。

【事務局】公益財団法人東京都公園協会で開催予定のスタンプラリーイベントについては、市にも協力依頼が来ており、実行委員会でも情報共有したいと思う。

（3）平和施策のあり方懇談会の報告について【資料3】

- ・事務局より平和施策のあり方懇談会報告書について説明。
- ・平和施策のあり方懇談会に参加していた実行委員から補足。
- 【副委員長】 実行委員会で実施していたことが平和施策で活かされていたこともあれば、平和施策のあり方懇談会で新しいことを学ぶこともあった。報告書にも沿いながら今後の活動に活かしていければと思う。
- 【委員】 懇談会に参加していた委員の方々から学ぶことが多くあった。武蔵野市特有の平和施策が今後のポイントとなると考えている。実行委員会として、武蔵野けやき会が熱心に取り組んできたことが土台になった8月の夏季平和事業や、11月の平和の日など、これまでの平和啓発活動を報告書でも位置付けてほしいことについて意見を出した。「戦争も核もない世界を武蔵野から」というスローガンに集約する方向でまとめていくことが大事かと思う。
- 【事務局】 この報告書については、市議会でも報告をした。ロシアによるウクライナ侵攻など、現代の戦争・紛争も捉えて市の平和施策も変化していく必要があるのではないかと、という意見や、懇談会では平和の概念を一定絞って議論をしたが、平和を広く捉える積極的平和の考え方をもって平和施策を進めてもらいたいといった意見もいただいた。また、市の平和事業の認知度も低いといった意見も出た。
- 【委員】 平和のイメージについて、狭義と広義に分けて捉えることは良いと思うが、報告書の5ページ、広義の平和の中にある人権擁護について報告書には記載がない。懇談会として踏み込みが甘い部分もあったのではないかと思う。副教材やリーフレットの作成については、大人だけで作成するのではなく、小学5、6年生などとフィールドワークをしてみた記録を教材に使うなどの工夫も取り入れたら良いと思う。
- 【委員】 子ども向けのパネルなどを作成し、小学校で巡回して掲示するのも良いと思う。大人の戦争の常識は子どもたちには通用しないし伝わらない。昭和何年と伝えても子どもたちには伝わらないため、私は西暦で伝えるなどの工夫もしている。また、子どもたちは平和のリーフレットを作成してもほとんど見ない。クリアファイルなど子どもが魅力に感じるもので啓発品を作る必要がある。まずはイベントなどに来てもらうことが重要であると感じている。
- 【副委員長】 委員としては、11ページにあるような子どもたちに関心をもってもらい、知識を活かして何か活動をしてもらいたいという思いが組み込まれている。

#### (4) 1年間のふり振り返り

- 【委員】 令和5年は集客がうまくいったかと思う。子どもの関心に訴えることも必要であるが、若い世代の親の関心にもつながるイベントをできたことが大きかったのではないかと思う。次にも活かしていければと思う。個人的には、カテリーナさんとむさしのジュニア合唱団「風」による音楽コンサートでは、司会を務めさせていただいた。舞台から近いところで演奏や声を聴いたが、感情に訴えられるような感動があった。観客の方にも伝わったのではないかと思うため、イベントとして良かったと思う。
- 【委員】 実行委員会では、様々な意見をお伝えさせていただいた。来年度は所属するコミュニティセンターのイベントに力を入れたいと思う。コミセンでは、し

ようけい館や昭和館と協力して、ツアーを実施したいと考えている。興味のある方は参加していただければと思う。それらの館では、子ども向けのリーフレットなども作成しているため、参考にしていただければと思う。また、集客については、平和活動を押し出したイベントでは人が集まらない。平和とは関係のないイベントの前半に平和に関する内容を入れ込むなどの方法で集客していかないと人はなかなか集まらない。平和活動として行うだけでなく、様々な実施の仕方がある。小ホールの客席をいっぱいにするようなイベントをできればと思う。

- 【委員】この1年間勉強をさせていただいた。原爆に関するパネル展をしてきたが、会員の人たちが高齢になっているため、役員だけでなく他の方も来ていただくようにしたいと考えている。今後も勉強していきたい。
- 【委員】90歳になるが、なぜ次から次へと戦争は起こるのか、なぜ戦争はなくならないのかと思っている。子どもがかわいそうだと思う。私たちも子どもの頃は同じような思いをしてきたが、これからの時代はどうなるのかと思う。歴史を見る限り、ずっと戦いは絶えないものなのかと思うが、平和を口に出していかなければならないと思う。本当の平和について考えていきたい。
- 【委員】戦争体験者の話を残したいと思う。時間が経つと忘れてしまうため、記録をして聞き返せるようなことができればと思う。私たちが進んできた道を次の世代は進んではいけないということが一番の思いである。また、研修会は、もっと早い時期に実施できればと思う。早い時期に行くことで、委員の方とも打ち解けることができるということと、時候としても良いかと思う。来年度以降に対する意見としたい。
- 【委員】私たちが次の代にどのように伝えていくかが大切だと思う。集客の人数も大切だが、今まで来なかった方達に来ていただくことも重要だと思う。また、研修会で横須賀に行き猿島を見学したが、良い経験ができたと思う。三笠についても、大人になってから見ることで感じるものが多くあった。改めて個人的に見学もしたいと思う。
- 【委員】様々な意見を出させていただいたが、多くの視点や学びがあり、今年も充実していたと思う。現地で見ること大切であり、研修会で行った三笠については、この戦艦で戦争をしていたことを考えると感じるものが多くあった。また、一部を見て平和について批判的に見てはいけない。実物を見ることの重みはあると思う。
- 【委員】研修会で行った猿島や三笠を現地で見たことが印象深かった。研修会で学んだことを委員として事業に返していくことについては、まだできていないと思う。これからも委員の方々から平和について、話を聞きたい思いもあるため、来年度以降も実行委員として頑張りたいと考えている。
- 【委員】武蔵野市老人クラブ連合会のイベントも実施しているが、他の委員にもご協力いただき講演会なども実施をさせていただいている。令和5年度は、実際に武蔵野市で戦争を体験している方にお話をさせていただいた。老人クラブ連合会の会員の方は戦争体験者の方も多く、色々な方と交流ができたと思う。研修会も楽しみにしていたが、参加できなかったのは残念だった。芸能文化祭にも参加してもらえればと思う。事業計画を立てていく

中で、力になればと思う。

- 【委員】2年間実行委員会として関わってきたが、毎回勉強になると感じている。1人で勉強して終わってしまうのはもったいないと思うため、イベントでは個人的な友人に声をかけたりもしている。令和6年度も公募委員として参加したいと考えており、また来年度は、初空襲から80年となり大きな節目でもある。11月24日が武蔵野市平和の日であることの認知度を高めていくことを事業の大きな柱として捉えていきたいと思う。
- 【委員長】この前の研修会で現地を見に行っただが、展示されていたものと同じ爆弾が私の寺にもあり、戦争の範囲は広いし、つながっていると感じた。私の曾祖父は、王道楽土の戦いに行った歴史があり、大善寺のお坊さんをしていた。私のお寺に爆弾や銃弾、当時の召集令状もあり、古いものとしては武蔵野市関前にあった日露戦争の顕彰碑があった。個人の所有であるため、処分をしているものもあるが活用したい。横須賀に行くと勝ったときの気持ちが次の戦争につながっていくことを感じ、日本の教育が戦争につながらないようにしなければいけないと感じる。戦争について勉強することも大切であり、長い歴史の中で、どのように平和を構築していくかが重要だと感じている。
- 【事務局】1年間平和事業業務に関わる中で、実行委員会の皆様にもたくさんご協力いただいたと感じている。この1年で得るものは多くあったと思うため、来年度の平和事業に活かしていきたい。
- 【事務局】恥ずかしながら、この部署に来るまで、平和の日のことや中島飛行機武蔵製作所のこともあまり把握していなかった。そのため、実行委員会の中で様々なことを学ばせていただいた。市民向けの啓発を進める中で職員向けの啓発も進める必要があると考えている。来月、他部署と共同で職員向けの研修を実施できるため、学んだことを活かして職員にも周知や啓発ができればと考えている。市全体で平和の取り組みを推進していければと思う。
- 【事務局】今年は平和施策のあり方談会もあり、また実行委員会でも様々な宿題をいただいたと感じている。若い世代は、平和や政治について興味があることに周りから「意識高い系」という印象を持たれることがあり、イベントに参加しにくいという話を複数聞いた。中高生でも平和事業は友人を誘いにくいといった印象があるようなので、平和や戦争ということを前面に出しすぎず、参加しやすいイベントにすることで平和を考える機会を作りたい。平和啓発事業としては、平和を目指す気持ちは同じだが、その道りが違うことはあると思う。本当の正解は見つからないかもしれないが、考えることが大事なので、考えるきっかけを作れるイベントを開催できればと考えている。研修会は、詳しい方々に行き非常に楽しく感じた。予算や計画にもよるが、意見をいただいたようにスケジュールについては検討したい。

#### (5) その他

- ・謝礼の振り込みについては、令和6年4月中に行う。
- ・今年度の活動について感想文の作成を依頼。200～300文字程度で作成し、4月26日（金）までに事務局へ。
- ・各委員による活動報告。

### 3 閉会